

書の世界

高村光太郎

平成29年度花巻市共同企画展

書はあたり前と見えるのがよいと思う。
無理と無駄との無いのがよいと思う。

(随筆『書について』)



平成29年

12月9日(土)~

平成30年

2月26日(月)

高村光太郎記念館

写真・光太郎愛用の筆

書をみるのはたのしい。画は見飽きることもあるが、書はいくらみてもあきまない。又いくどくり返してみてもそのたびに新しく感ずる。

(随筆『書の深淵』)



写真・光太郎愛用の硯箱

彫刻家で詩人として知られる高村光太郎。戦火の東京から花巻へ疎開し、その後太田村山口へ移住した光太郎は自らの戦争責任に対する悔恨の念がつのり、あえて不自由な生活を続け、彫刻制作を一切封印しました。

山居生活では文筆活動に取り組み、数々の詩を世に送り出す一方で、花巻に大小さまざまな『書』を遺しました。

『乙女の像』制作のため帰京した後、晩年の病床でも数々の揮毫をした光太郎は、死の直前に自らの書の展覧会の開催を望んでいたことが日記に残されています。

この企画展では彫刻・文芸と並び、光太郎・第三の芸術とも言われる『書』を通じて太田村時代の造形作家としての足跡をたどります。

高村光太郎記念館

〒025-0037 岩手県花巻市太田3-85-1 ☎0198-28-3012
開館 午前8時30分 閉館 午後4時30分 休館日 12月28日～1月3日

高村山荘・高村光太郎記念館 入場料

一般 550円／高校生・学生 400円／小・中学生 300円

※団体入場(20名以上)は上記から一人あたり100円割引

